いて具体的に記述する項目がいくつかあり、スケール得点だけでなく評価対象の子どもの種々の特異的な情報も得ることができる。SP感覚プロファイルは、感覚刺激への反応傾向を評価するSensory Profileの日本版で、感覚の過敏さや過鈍さといった問題について、複数の感覚領域にわたり包括的に把握することができる。感覚神性を客観的に把握する。簡便に、短時間で実施できるのが特徴である。感覚刺激への反応傾向を4つの象限(低登録・感覚探求・感覚過敏・感覚回避)でとらえており、発達障害に有用な検査と言われている。この2つの心理検査を中心に、発達の評価と治療の方法、その際の子どもの反応と医療者のかかわりなどに関する質問を組み合わせる。この質問紙をもとに血友病の子どもたちに日常生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。また、子どもたちのすこやかな発達のために重要な環境を明らかにする予定である。今後は、予備調査をしたのちに本格的な調査を行っていく。さらに介入研究に向けて、効果を測定することができる質問紙や観察項目など決定し、準備していく。Most children with hemophilia need treatment 2 days a week. This treatment is very stressful to children. We hypothesize that hemophiliac children may have medical trauma due to their treatment, and traumatized children may have a hard time in daily life. Nurses have informed us that many children with hemophilia exhibit behaviors similar to developmental disorders, but research on this topic is scarce. Consequently, we chose to study the occurrence of behaviors indicative of development disorders in children with hemophilia. If many juvenile hemophiliacs exhibit similar behaviors as those who have developmental disorders, this calls for an investigation into their possible medical trauma and changes in the care they receive.  We reviewed many papers about child development, developmental disorders, and medical trauma to design a survey. Our survey utilizes the CBCL (Child Behavior Checklist) and Sensory Profile psychological tests, which are used to diagnose developmental disorders. These will give us a	Title	血友病の子どものすこやかな発達に影響する因子の探索的研究					
Author   国域、悦子(Tomisaki, Etsuko)   Publication year   2020   Jitile   学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)   JatC DOI   Abstract   血友病の子どもの中で発達障害のような行動により日常生活に困難を抱えている子どもが一定数いる。しかし、どの位の割合の子どもが目常生活に困難を感じているのかは明らかになっていない。した。、血疾病患者で発達障害のような行動により日常生活に困難を感じている動き者がどの程度いるのかを明らかにすることとその背景を自動に探索が政研究を行うためた問題を考している。と前がどい、そこで、血疾病患者で発達障害、トラウマなどに関する本や論文などを参考とした。質問紙には、他の研究など上に敷しやすいように心理検査を含めることとした。心理検査をしては、CBCLは、の研究など上に敷しやすいように心理検査を含めることとした。心理検査としては、CBCLは、PSP感覚プロファイルを使用する予定である。 CBCはは子どもの行動、情緒、社会性の問題を採点化する質問紙である。また、子どもの問題について、現状の原内が関係である。CBCはは子どもの行動、情緒、社会性の問題を採点化する質問紙である。また、子どもの問題について、現状の原内が自然である。 PSFのな情報も得ることができる。SPR意プロファイルは、感覚刺激への反応傾向を評価する際のアが同時の日本版で、感覚刺激への反応傾向を4つの条限(径登標・感覚探求・感覚過敏・感覚回避)でとらえており、発送障害に有用な好金と言われている。この2つの心理検査を中心に、発達の評価と治療の方法、その際の子どもの反応と医療者のかかりなどに関する質問機を組み合わせる。この質問紙をもとに血友病の子どもの反応と医療者のかかりなどに関する質問機を組み合わる。この質問紙をもとに血友病の子どもの反応と医療者のかかりなどに関する質問機を組み合わる。この質問紙をもとに血友病の子ども方に育性生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。今後は、予信調査をとしている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。今後は、予信調査をしていて、必然に対すいましたの方には関係を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。今後は、予信調査をしたの方に本格的な問題を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。今後は、予信調を定している患者がどの程度に対する事がとの表している。そのでは、中ではでは、他のではである。今後は、予信調査をしたの方に本格的な問題を感じている患者がどの程度にあるかにする予定である。今後は、予信調査をしている。とのでは、中ではでは、他のではでは、中ではでは、他のでははでは、中ではでは、他のでははでは、中でははは、中でははは、中でははは、中でははは、中でははは、中ではははいるいはは、中でははは、中ではははいるでは、中でははないでは、中でははは、中ではは、中ではは、中ではは、中ではは、中ではは、中ではは、	Sub Title	Finding the factor that promotes juvenile hemophiliacs' healthy development					
### Publication year 2020    Abstract							
Jatic DOI Abstract  加友病の子どもの中で発達障害のような行動により日常生活に困難を抱えている子どもが一定数いる。しかし、どの位の割合の子どもが日常生活に困難を感じているのかは明らかになっていない。そこで、血友病患者で発達障害のような行動により日常生活に困難を感じている側をあげることとした。子どもの時間を関いている患者がどの程度いるのかまりらかにすることとでの背景を目的に探索的な研究を行うこととした。子どもの発達と発達障害、トラウマなどに関する本や論文などを参考とした。質問紙には、他の研究などと比較しやすいように心理検査を含めることとした。小理検査としては、CBCLとSF感覚プロファイルを使用する予定である。 CBCは子どもの行動、情緒、社会性の問題を採点化する質問紙である。また、子どもの問題について具体的に記述する項目がいくつかあり、スケール得点だけでなく評価対象の子どもの種々の特異的な情報も得ることができる。SP感覚プロファイルは、感覚刺激への反応傾向を評価するSensory Profileの日本版で、感覚の過敏さや過鈍さといった問題について、複数の感覚領域にわたり包括的に把握することができる。感覚特徴を容観的に把握する。間便に対験の子どもの種々のが特徴である。感覚刺激への反応傾向を4つの象限(低登録・感覚探求・感覚過敏・感覚回避)でとらえており、発達障害に有用な検査と言われている。この2つの心理検査を中心に、発達の評価と治療の方法、その際の子どもの反応と医療者のかかりりなどに関する質問を組み合わせる。この質問紙をもとに血友病の子どもたちに日常生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。また、子ともたちのすこやかな発達のために重要な環境を明らかにする予定である。今後は、予備調査をしたのちに本格的な調査を行っていく。さらに介入研究に向けて、効果を測定することができる質問紙や観察項目など決定し、準備していく。 Most children with hemophilia need treatment 2 days a week. This treatment is very stressful to children. We hypothesize that hemophiliac children may have a hard time in daily life. Nurses have informed us that many children with hemophilia children may have a hard time in daily life. Nurses have informed us that many children with hemophilia whave a hard time in daily life. Nurses have informed us that many children with hemophilia set new a survey. We reviewed many papers about child development disorders, and medical trauma to design a survey. Our survey utilizes the CBCL (Child Behavior Checklist) and Sensory Profile psychological tests, which are used to diagnose developmental disorders, and medical trauma and changes in the care they receive. We reviewed many papers about child development, developmental disorders, and medical trauma to design a survey. Our survey utilizes the CBCL (Child Behavior Checklist) and Sensory Profile psychological tests, which are used to diagnose develo	Publisher						
Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)  Abstract	Publication year	2020					
加友病の子どもの中で発達障害のような行動により日常生活に困難を抱えている子どもが一定数いる。しかし、どの位の割合の子どもが日常生活に困難を感じているのかは明らかになっていない。そこで、血友病患者で発達障害のような行動により日常生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにすることとその背景を目的に探索的な研究を行うために調査を行うこととした。子どもの発達と発達障害、トラウマなどに関するかな研究を行うために調査を行うことととした。子どもの発達と発達障害、トラウマなどに関するかな済文を参考とした。愛問紙には、他の研究などと比較しやすいように心理検査を含めることとした。心理検査としては、CBCLとSP感覚プロファイルを使用する予定である。  CBCは子どもの行動、情緒、社会性の問題を採点化する質問紙である。また、子どもの問題について具体的に記述する項目がいくつかあり、スケール得点だけでなく評価対象の子どもの種々の特異のな情報も得ることができる。SP感覚プロファイルは、感覚刺激への反応傾向を評価するSensory Profileの日本版で、感覚の過敏さや過鈍さといった問題について、複数の感覚領域にわたり包括的に把握することができる。感覚特性を客観的に把握する。簡便に、短時間で実施できるのが特徴である。感覚刺激への反応傾向を4つの象限(低登録・感覚探求・感覚過敏・感覚回避)でとらえており、発達障害に有用な検査と言われている。この2つの心理検査を中心に、発達の評価と治療の方法、その際の子どもの反応と医療者のかかわりなどに関する質問を組み合わせる。この質問紙をもとに血友病の子どもたちに日中常生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。また、子どもたちのすこやかな発達のために重要な環境を明らかにする予定である。今後は、予備調査をしたのちに本格的な調査を行っていく。さらに介入研究に向けて、効果を測定することができる質問紙や観察項目など決定し、準備していく。 Most children with hemophilia ced treatment 2 days a week. This treatment is very stressful to children. We hypothesize that hemophiliac children may have madical trauma due to their treatment, and traumatized children may have a hard time in daily life. Nurses have informed us that many children with hemophilia exhibit behaviors similar to developmental disorders, but research on this topic is scarce. Consequently, we chose to study the occurrence of behaviors indicative of development disorders in children with hemophiliac exhibit similar behaviors as those who have developmental disorders, and medical trauma to design a survey. Dur survey utilizes the CBCL (Child Behavior Checklist) and Sensory Profile psychological tests, which are used to diagnose developmental disorders. These will give us a base of data to compare with other studies. With our survey, we will assess children's development and ask how the child has been treated in the hospital. After our pilot study, we hope to pursue more in-depth research in order to improve the standard of care provided to children with hemophilia.		学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)					
いる。しかし、どの位の割合の子どもが日常生活に困難を感じているのかは明らかになっていない。そこで、血友病患者で発達障害のような行動により日常生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにすることとその背景を目的に探索的な研究を行うために調査を行うこととした。子どもの発達と発達障害、トラウマなどに関する本や論文などを参考とした。質問紙には、他の研究などと比較しやすいように心理検査を含めることとした。心理検査としては、CBCLとSP感覚プロファイルを使用する予定である。 CBCは子どもの行動、情緒、社会性の問題を採点化する質問紙である。また、子どもの問題について具体的に記述する項目がいくつかあり、スケール得点だけでなく評価対象の子どもの種々の特異的な情報も得ることができる。SP感覚プロファイルは、感覚刺激への反応傾向を評価するSensory Profileの日本版で、感覚の過敏さや過鈍さといった問題について、複数の感覚領域にわたり包括的に把握することができる。感覚特性を客観的に把握する。簡便に、短時間で実施できるのが特徴である。感覚刺激への反応傾向を4つの象限(低登録・感覚形で、短時間で実施できるのが特徴である。感覚刺激への反応傾向を4つの象限(低登録・感覚形で、短時間で実施できるのが特徴である。感覚刺激への反応傾向を4つの象限(低登録・感覚記録・感覚回避)でとらえており、発達障害に有用な検査と言われている。この2つの心理検査を中心に、発達の評価と治療の方法、その際の子どもたちに日常生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。また、子どもたちのすこやかな発達のために重要な環境を明らかにする予定である。今後は、予備調査をしたのちに本格的な調査を使いている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。また、子どもたちのすこやかな発達のために重要な環境を明らかにする予定である。今後は、予備調査をしたのちに本格的な調査を行っていく。さらに介入研究に向けて、効果を測定することができる質問紙や観察項目など決定し、準備していく。とのたけは時で、効果を測定することができる質問紙や観察項目など決定し、準備的していく。Most children with hemophilia achildren may have medical trauma due to their treatment, and traumatized children may have a hard time in daily life. Nurses have informed us that many children with hemophilia children with hemophilia is finany juvenile hemophiliacs indicative of development disorders in children with hemophilial is finany pivenile hemophiliacs exhibit similar behaviors as those who have developmental disorders, but research on this topic is scarce. Consequently, we chose to study the occurrence of behaviors indicative of development disorders in children with hemophilial is finany juvenile hemophiliacs exhibit similar behaviors as those who have developmental disorders, and medical trauma to design a survey. Our survey utilizes the CBCL (Child Behavior Checklist) and Sensory Profile psychological tests, which are used to diagnose developmental disorders. These will give us a base of data to compare with other studies. With our survey, we will assess children's development and ask how the child have been treated in the hospitial. After our pilot study, we hope to pursue more in-dep	JaLC DOI	` ´					
Notes Genre Research Paper		いる。しかし、どの位の割合の子どもが日常生活に困難を感じているのかは明らかになっていない。そこで、血友病患者で発達障害のような行動により日常生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにすることとその背景を目的に探索的な研究を行うために調査を行うこととした。子どもの発達と発達障害、トラウマなどに関する本や論文などを参考とした。質問紙には、他の研究などと比較しやすいように心理検査を含めることとした。心理検査として後間について見体的に記述する項目がいくつかあり、スケール得点だけでなく評価対象の子どもの種々の特異的な情報も得ることができる。SP感覚プロファイルは、感覚刺激への反応傾向を評価するSensory Profileの日本版で、感覚の過敏さや過鈍さといった問題について、複数の感覚領域にわたり包括的に把握することができる。SP感覚プロファイルは、感覚刺激への反応傾向を評価するSensory Profileの日本版で、感覚の過敏さや過鈍さといった問題について、複数の感覚領域にわたり包括的に把握することができる。感覚特性を客観的に把握する。簡便に、短時間で実施できるのが特徴である。感覚刺激への反応傾向を4つの象限(低登録・感覚探求・感覚過敏・感覚回避)でとらえており、発達障害に有用な検査と言われている。この2つの心理検査を中心に、発達の評価と治療の方法、その際の子どもの反応と医療者のかかりりなどに関する質問を組み合わせる。この質問紙をもとに血友病の子どもたちに日風難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。また、子どもたちのすこやかな発達のために重要な環境を明らかにする予定である。今後は、予備調査をしたのちに本格的な調査を行っていく。さらに介入研究に向けて、効果を測定することができる質問紙や観察項目など決定し、準備していく。Most children with hemophilia need treatment 2 days a week. This treatment is very stressful to children with hemophilia exhibit behaviors similar to developmental disorders, but research on this topic is scarce. Consequently, we chose to study the occurrence of behaviors indicative of development disorders in children with hemophilia. If many juvenile hemophiliacs exhibit similar behaviors as those who have developmental disorders, this calls for an investigation into their possible medical trauma and changes in the care they receive We reviewed many papers about child development, developmental disorders, and medical trauma to design a survey. Our survey utilizes the CBCL (Child Behavior Checklist) and Sensory Profile psychological tests, which are used to diagnose developmental disorders, These will give us a base of data to compare with other studies. With our survey we will assess children's development and ask how the child has been treated in the hospital. After our pilot study, we hope to pursue more in-depth research in order to improve the standard of care provided to children with					
Genre Research Paper	Notes	nonoprina.					
		Research Paper					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2019 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	看護医療学部	職名	専任講師	補助額	300 (	(A)	千円
	氏名	富崎 悦子	氏名 (英語)	Etsuko Tomisaki		300 (	Α)	113

### 研究課題 (日本語)

血友病の子どものすこやかな発達に影響する因子の探索的研究

## 研究課題 (英訳)

Finding the factor that promotes juvenile hemophiliacs' healthy development

### 1. 研究成果実績の概要

血友病の子どもの中で発達障害のような行動により日常生活に困難を抱えている子どもが一定数いる。しかし、どの位の割合の子どもが日常生活に困難を感じているのかは明らかになっていない。そこで、血友病患者で発達障害のような行動により日常生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにすることとその背景を目的に探索的な研究を行うために調査を行うこととした。子どもの発達と発達障害、トラウマなどに関する本や論文などを参考とした。質問紙には、他の研究などと比較しやすいように心理検査を含めることとした。心理検査としては、CBCLと SP 感覚プロファイルを使用する予定である。

CBCL は子どもの行動、情緒、社会性の問題を採点化する質問紙である。また、子どもの問題について具体的に記述する項目がいくつかあり、スケール得点だけでなく評価対象の子どもの種々の特異的な情報も得ることができる。SP 感覚プロファイルは、感覚刺激への反応傾向を評価する Sensory Profile の日本版で、感覚の過敏さや過鈍さといった問題について、複数の感覚領域にわたり包括的に把握することができる。感覚特性を客観的に把握する。簡便に、短時間で実施できるのが特徴である。感覚刺激への反応傾向を 4 つの象限(低登録・感覚探求・感覚過敏・感覚回避)でとらえており、発達障害に有用な検査と言われている。

この2つの心理検査を中心に、発達の評価と治療の方法、その際の子どもの反応と医療者のかかわりなどに関する質問を組み合わせる。この質問紙をもとに血友病の子どもたちに日常生活に困難を感じている患者がどの程度いるのかを明らかにする予定である。また、子どもたちのすこやかな発達のために重要な環境を明らかにする予定である。今後は、予備調査をしたのちに本格的な調査を行っていく。さらに介入研究に向けて、効果を測定することができる質問紙や観察項目など決定し、準備していく。

### 2. 研究成果実績の概要(英訳)

Most children with hemophilia need treatment 2 days a week. This treatment is very stressful to children. We hypothesize that hemophiliac children may have medical trauma due to their treatment, and traumatized children may have a hard time in daily life. Nurses have informed us that many children with hemophilia exhibit behaviors similar to developmental disorders, but research on this topic is scarce. Consequently, we chose to study the occurrence of behaviors indicative of development disorders in children with hemophilia. If many juvenile hemophiliacs exhibit similar behaviors as those who have developmental disorders, this calls for an investigation into their possible medical trauma and changes in the care they receive.

We reviewed many papers about child development, developmental disorders, and medical trauma to design a survey. Our survey utilizes the CBCL (Child Behavior Checklist) and Sensory Profile psychological tests, which are used to diagnose developmental disorders. These will give us a base of data to compare with other studies. With our survey, we will assess children's development and ask how the child has been treated in the hospital. After our pilot study, we hope to pursue more in-depth research in order to improve the standard of care provided to children with hemophilia.

# 3. 本研究課題に関する発表 発表者氏名 (著者・講演者) 発表課題名 (著書名・演題) 発表学術誌名 (著書発行所・講演学会) 第書発行年月・講演年月)